

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2691600049 | | |
| 法人名 | 株式会社ピュアロージュ | | |
| 事業所名 | グループホーム 亀岡陽風荘 | | |
| 所在地 | 京都府亀岡市本梅町東加舎九日田9番6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年2月7日 | 評価結果市町村受理日 | 令和元年5月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | www.kaipokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2691600049-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 京都ボランティア協会 | | |
| 所在地 | 〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町梅湊83-1「ひと・まち交流館 京都」1階 | | |
| 訪問調査日 | 平成31年3月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で安心した生活が出来るように支援させて頂いている。特に食事面には力を入れており、季節のものはもちろん。その日、その時のニーズに合わせたものや、利用者個人の好みに合わせた料理を、職員が手作りで提供させて頂いている。行事の際には、ご家族への参加の呼びかけもさせて頂き、職員だけでなく、利用者や家族も一緒に作り上げるイベントを目指して、企画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

株式会社ピュアロージュが運営するグループホーム亀岡陽風荘は、平成21年4月に開設しています。亀岡市の西部、大阪府との境に近く、四季折々の風情、自然に恵まれた長閑な環境にあり、小規模多機能型居宅介護事業所(1階)と協働して運営されています。地域の厳しい風習の中、地域の方々に対し散歩の時や朝市での挨拶をはじめ、保育所との交流、小学生下校時の見守り、古紙回収、駐在所との連携、地域行事への参加、昨年より陽風荘サロンの開催などの実績を積み上げて地域との連携を大切にされています。陽風荘の夏祭りには、多くの地域の方が参加し楽しく過ごされています。事業所の地道な活動の努力の結果、少しずつ地域に受け入れられつつあります。陽風荘サロンには、地域からの参加もあり、入居者と一緒にランチバイキングを楽しんでいます。入居者は、自宅に近い住み慣れた環境の中でその人らしく穏やかな表情で過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域の施設を利用したり、近くへの散歩等、出来る範囲では共有は出来ている。 | 法人の事業は「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」を基本理念としている。この理念に沿ってグループホーム亀岡陽風荘は「その人らしさを支える」と理念を掲げ全職員が共有して実践につないでいる。入居者が住み慣れた地域なので「散歩に行きたい」と言った場合など、職員は行きたい所へ一緒に散歩してその人の思いを叶えている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の町内会の行事への参加等は時々行つが、日常的な交流はほとんど出来ていない。 | 町内会に加入し、古紙回収や小学生下校時の見守りをしている。併設の小規模多機能居宅介護事業所と共同で月1回開催する陽風荘サロンでは、体操やカラオケ、ランチバイキングなど、駐在員の家族や地域の方も複数参加して楽しんで貰っている。グループホームの夏祭りは、毎年地域住民など総勢100名ほどの参加者があり家族やボランティアの協力を得て盛大におこなわれている。保育所の卒園式には、入居者が鉢付きチューリップを折り紙で作し、一人ひとりに手渡しして祝っている。定期的な交流を持ち地域との関係を大切にしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 交流自体が少ないため、地域貢献には繋がっていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度の運営推進会議での意見は、全体会議やユニット会議に議題として話し合われ、サービスの向上に向けての取り組みが行われている。 | 会議には、町内会長、家族会会長、民生児童委員、駐在所員、市担当課職員、包括支援センター職員、管理者などが参加し、小規模多機能型居宅介護事業所と共同で実施している。入居者状況、ヒヤリハット・事故報告、活動および行事実施報告と翌月の予定などを伝えている。入居者の緊急時など状況変化時の対応についての質問に対し、看護師による24時間オンコール体制の確保と中部医療センターとの連携を説明している。 | 会議録は、入居者などの報告事項が大変分かりやすく工夫した形式で記録されている。しかし、参加者との意見交換、検討事項などの記録がほとんど見当たらなかった。会議の内容が第三者にも見えるような記録の工夫を望みたい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議や、必要な時の連絡はあるものの、日頃の連絡は見られない。 | 市担当課の職員には、運営推進会議に参加して貰い事業所の実情に接して貰っている。また情報提供などを頂いたり何でも相談できる協力関係は築けている。地域密着型事業所連絡会や介護支援専門員会議にも参加し、その都度情報交換や新情報を得て活用している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての内部研修を行い、夜間以外は施錠をしない。徘徊に対しての見守り等、拘束しないケアを目指している。 | 運営規程「利用者の人権擁護、虐待防止」や重要事項説明書に「身体的拘束をしない」などを明記し、本人や家族に説明している。「身体拘束・虐待」について年間研修計画に4回取り組む計画を確認したが、実施記録の確認ができなかった。帰宅願望のある方には話題を変えて見守り支援をしている。 | 身体拘束をしないケアの実践に対して、職員の年間研修計画に取り入れて取り組む姿勢は評価できる。研修日時、場所、出席者、内容、資料添付(必要時)など、実施した証の研修記録を残すことが必要である。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 外部研修にて学ぶ機会を持ち、入浴の際のアザや傷の確認を行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修で学ぶ機会はあるものの、各職員へまでは理解は及んでいない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に十分な説明を行い、理解して頂けるよう心掛けている。又、契約後の家族の不安や疑問においても、十分な説明を行い理解してもらえよう心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議、及び面会時に家族からの要望の聞き入れ、意見箱の設置等を行いそれらを運営に反映させており、外部者へは掲示物等にて表せる機会を設けている。 | 職員は、家族などの面会時には常に意見を聞く姿勢で臨んでいるが、主に個人的なケアについての話である。夏祭りの後に恒例の家族懇談会を設けているが意見はほとんどない。年1回、入居者の嗜好調査を実施し結果を反映させている。サービスに係る家族アンケートも年1回実施している。自由記述はなく、現状に満足している状況が確認できる。 | 家族アンケートから、グループホーム陽風荘のサービスに対する家族の意見・要望を期待されるならば、その内容や項目について検討されては如何でしょうか |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1度の全体会議や、普段より意見・提案を聞く機会を設け、出来る範囲での反映はしている。 | 職員の意見は、日常的に聞き取って受け止めている。毎月1回開催する全体会議やユニット会議においても意見を聞く機会がある。職員は、入居者がしたいことを実現させたい、暖かくなったら外出の機会を多く計画して買い物外出なども提案したいと言っている。その人の思い、その人らしさを支えたい思いが伝わってきた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者が職員個々の実績や職場環境をまとめ、代表者へ報告し、より良い条件・環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部研修の機会が多いが、外部研修の機会が少ない。受ける機会自体は少なくはない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同一事業所内での行事を通しての交流や、ブログでの状況報告等を行っているものの、他事業所との交流は行っていない。見学者としては来訪される。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人とできる限りのコミュニケーションを取り、医療的な面や生活面の不安を聞かせてもらい、安心を確保出来るよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の思いや要望を聞かせてもらい、よく話し合い、安心して頂けるような関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人の状態や現状を聞かせてもらい、必要としている支援の見極めに努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 尊敬を忘れず、共に暮らす者同士の関係を築き合う努力はしているが、時と場合によっては、一方の立場として見てしまうことがある。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 電話や面会時に、家族へ状況の報告・相談をすることで、共に支え合っている、協力関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会は常時可能で、手紙や電話の取り次ぎも行っている。又、家族へは気軽に来訪出来るような声かけに努めている。 | 家族の面会は、頻繁に来ている方や週1回の方、遠方でも毎月来訪する方など様々である。家族からの電話や手紙も時々あるが、手紙の返信支援は難しい。家族以外の面会者はほとんどない。入居前に通っていた理・美容院から訪問利用に変更している。畑仕事を趣味と実益を兼ねてきた方々が多く、他の趣味を持ち合わせていない。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が間に入り、利用者同士の関わり合い、支え合いを大事にしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 現在、契約終了後の相談や支援は大きくは見られないが、必要に応じて、出来る範囲で努める。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話や行動から思いを汲み取り、意思表示の困難な方からは家族からの情報も視野に入れ、本人にとって何が良いかを考えている。 | 入居確定時に本人の思いや望む暮らし方などを、家族に依頼してアセスメント票に記載して貰っている。職員はこれらの情報を共有している。その後は、日々の会話の中からその人の思いなどを汲み取って記録し、共有して支援している。意思表示が難しい方には、家族から聞き取ったり、表情や仕草などから推察しその人の思いに添うよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人・家族・面接記録等により、それまでの情報の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の流れの把握や、本人の意思確認を行い、ケース記録・申し送りノートにて、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当者と共に、ご本人の思いに沿った介護計画を作成している。 | 入居者を担当制とし、介護支援専門員とリーダー、担当職員などがアセスメント情報と入居後の様子などからモニタリングして、初回の生活援助計画を作成している。申し送りノートや日々の生活記録情報から全職員が毎月カンファレンスし情報の共有を図っている。その後は、6か月ごとにモニタリングし、1年ごとに計画を見直している。入居者の状況の変化に応じて随時モニタリングして計画を見直し、現状に即した計画を作成している。 | 入居者一人ひとりの生活援助計画には、目標や項目を定めて日々支援されていますが、その評価が生活記録などに見当たりませんでした。プランに沿って実施したことの評価が、次の計画の裏付けになります。実施したこと(記録(評価)方法を皆さんで話し合い負担にならない方法で確実に残されるよう望みます。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 些細な変化でもケース記録に記入し、職員間での情報の共有、又は介護計画への反映に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の希望に応じて、理美容やマッサージ等、出来る範囲でその都度対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアに協力して頂き、施設行事等は行っているが、それ以外の地域資源の活用は出来ていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 毎週金曜日に、提携している医療機関の往診があり、それ以外にも専門医、又は今までのかかりつけ医への受診も、希望に応じて行っている。 | かかりつけ医を継続受診している入居者もあり、家族支援を基本としている。場合により職員が支援することもある。家族同伴の場合は、本人の状態を訪問診療医師が書面にして家族に渡している。かかりつけ医からの情報は家族が貰って来ている。他の入居者は、協力医療機関の医師による月2回の訪問診療を受けている。歯科は、必要に応じて訪問治療を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 提携している医療機関の看護師に情報を伝えた上での電話相談、アドバイス、指示を受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 情報提供書を往診医師より医療機関へ送ってもらい、退院時には病院関係者との情報交換も行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に説明・確認を取っており、ご本人の状態の変化や家族の意向に沿った内容への再確認も行っている。又、その内容はユニット会議等で話し合われる。 | 「重度化した場合における対応に係る指針」を作成している。契約時に本人や家族に対し事業所のできる範囲のことを丁寧に説明し、確認・了解のうえ「事前意向確認書」に署名捺印を貰っている。入居者の状態の変化の都度、訪問診療医師からの情報を家族に伝え、家族などの意向を再確認している。協力医療機関との連携、看護師による24時間オンコール体制を確保している。職員は、看取り・ターミナルケアについて研修をしながら体制を整えて支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 心肺蘇生の講習や緊急時対応マニュアルはあるもの、定期的な研修は行えておらず、緊急時には不安は残る。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防署立ち会いの元、避難・防災訓練を実施しているが、地域との協力体制は築けていない。 | 年2回、消防署立ち合いの下で火災による避難訓練を入居者と一緒に行っている。その内1回は夜間を想定した訓練をおこなっている。平成30年9月の台風襲来時は、2日間の停電の中でカセットコンロで備蓄品を用い、不足分を近所のスーパーで買い求めて何とか無事に経過している。地域との協力体制を含めこの経験から得たもの、反省、分析してまとめ、今後に生かしたいと考えている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人の尊厳を大切にし、プライドやプライバシーを傷つけない、否定しない声かけを心掛けている。 | 入居者一人ひとりの人格を尊重することを基本として支援するよう努めている。馴れ馴れしい言葉遣いなど入居者の自尊心を傷つけないよう配慮し、その人の気持ちや思いなどその人らしさを大切にして支援している。 | プライバシーや接遇などについての年間研修計が確認できなかった。職員は理解されていると思いますが、再確認を含めより深く理解するためにも研修の機会を持たれるよう望みたい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 些細な事でも、自己決定して貰えるような声かけをし、思いや希望を言いやすい雰囲気作りに努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員の都合にならないように、ご本人の希望に沿った一日を送って頂けるように支援はしているが、都合上、業務を優先してしまうことはある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の整髪、自身での服選び、訪問理容等、出来る範囲では支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご本人に合わせた食器選びから、調理の手伝いや片付け。個々に合わせた調理や食事形態を取り支援している。 | 食事は、小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームが半月ごとに分担し、できるだけ地産食材を用いて献立表を作成し、全て手作りで提供している。嗜好調査を行い食事が楽しみになるよう支援している。刻み食など食べやすい食事形態の工夫や糖尿病、塩分制限、アレルギーの食品制限なども支援している。入居者の機能や能力に応じて、玉ねぎの皮むきや盛り付けなど職員と一緒にできることをおこなっている。週1回、ホットケーキなどのおやつ作りも楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 主治医と相談の上、食事量の調整・水分の確保に努めている。又、個々の状態に合わせ、ジュースやゼリー等も使用している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアを促し、義歯は夜間に洗浄を行っている。必要に応じて、訪問歯科を利用している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にてパターンを把握し、定期的に排泄の促し、声かけを行っている。又、利用者個々に応じて、見守り・付き添い・介助にて支援をしている。 | 排泄チェック表から一人ひとりのパターンを把握し、排泄を促す声掛けやトイレへの誘導をして快適な時間が過ごせるよう自立に向けて支援している。リハビリパンツにパットを併用している方が多く、本人の快適と安心を優先している。居室で夜間のみポータートイレを使用する方もある。排泄の改善は難しく、現状維持と継続支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 飲食物の調整、体操や運動、腹部マッサージにて予防に取り組んでいる。又、服薬の調整も行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ゆず湯等の季節のお湯。職員とのコミュニケーションで楽しい入浴を支援させて頂いているが、職員・業務の都合で時間が決まってしまうことはある。無理強いするような入浴は行っていない。 | 週2回午前中を入浴とし、できるだけ入居者の意向に沿うよう努めている。入浴中は職員から話しかけてコミュニケーションを取りながらゆっくり入浴を楽しんで貰っている。入浴を嫌がる方もあるが、時間や職員を変えたり、入浴剤を用いて気分を変えるなどして週2回の確保に努めている。ゆず湯など季節湯も楽しんで貰っている。浴槽内での入居者の体幹安定を意図して、浴槽の縁に器具を取り付けたり、シャワーチェアやリフト浴機などを設置し、一人ひとりに沿った支援をおこなっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の休息や夜間の入眠は、利用者個々のリズムに合わせて促しを行っている。又、安易な眠剤の導入は行わないよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の支援、症状の変化の確認、薬の管理は行っているが、全職員が利用者個々の薬の内容の把握・理解をしているとは言い難い。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者個々に合った役割分担（テーブル拭き、洗濯たたみ等）、行事やその準備、レクリエーションを行い支援している。 | | |

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物や散歩等にて外出の支援は行っているが、家族との協力での外出は出来ていても、地域の人々との協力は出来ていない。 | 天候の良い日は、近くを散歩して近所の人に出会うと挨拶を交わしている。車で近くのスーパーや朝市に行き、職員と一緒に買い物外出をしている。花見、新緑、紅葉狩り、近隣の外出など年間行事計画としてドライブ外出を組み込んでいる。グループホームの敷地の一角に菜園を整備し、土に長年慣れ親しんで来た入居者の楽しみの一つとして、また外に出る機会としても考えている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者個人のお金は事務所に保管しており、必要に応じて家族の許可を得た上で使用している。買い物時はご本人に選んで頂き、職員が管理・使用をする形を取っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙が届いたら利用者ご本人へ確認を取り、電話の取り次ぎも支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎日の清掃や清潔の保持、空調管理に努め、転倒事故等が起きないように物の配置を考えている。又、季節毎の飾り付けや行事写真の掲載、観葉植物等を設置し、工夫をしている。 | 食堂とテレビを見るスペースなどを区別できるほど広く採光が良いリビングがある。複数のソファや椅子を置き、入居者が思い思いの場所でテレビを見ながらリラックスして過ごせるように工夫している。食堂の傍にキッチンがあり食材を刻む音や煮物の匂いが伝わり家庭的な雰囲気がある。入居者の転倒予防に配慮した物品の配置と動線の確保を工夫している。壁面には職員が作った大きいカレンダーや入居者の作品などを飾っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング、ソファ、和室等を各々が自由に利用して、思い思いに過ごせる場所は提供している。又、必要であればその中に職員も入らせて頂く。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者ご本人の馴染みのある物、使い慣れた物を持ってきて頂き、家族と相談し、ご本人にとって危険がないかを確認した上で居室内で使用して頂いている。 | 各居室前には、職員が手作りした可愛いフエルトのネームプレートが掛けてある。居室には、クローゼット、エアコン、ベッドなどを備えている。窓のカーテン(防災)は入居者の好きな色調で各自が購入している。小型のチェストを持ち込みその上にテレビや家族の写真などを置いている。誕生日にホームから祝って頂いた色紙やその時の写真などを壁面にも飾り、心地よく過ごせる工夫をしている。職員は危険が無いよう気配りしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室入口に各々の表札を付け、各所に手すりを設置。建物内に何かあるかはその都度説明をし、自立した生活を促している。 | | |